



# Reitaku Overseas Development Association RODA ニューズレター

財団法人麗澤海外開発協会 会報

平成24年  
(2012年)  
2月25日  
第15号

第9巻 第2号  
年2回発行

### 主な記事

巻頭 カンボジアの小学校が完成  
報告 ネパール・ヘルスキャンプ報告  
タイ・スタディツアー  
チャリティーコンサート

発行所：財団法人麗澤海外開発協会  
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1  
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953  
<http://www.reitaku.or.jp>  
発行人・甲良昭彦 / 編集人・横山守男

## 「新しい校舎で勉強する夢が叶いました！」

### カンボジア王国コンポントム州サントウック郡

### 「ベン・ロヴィア・レー小学校」が完成



平成23年9月、(財)麗澤海外開発協会(RODA：会長・廣池幹堂)がカンボジア教育支援事業として進めていたベン・ロヴィア・レー小学校(カンボジア王国コンポントム州サントウック郡 Beung Lavea Leu primary school)の新校舎が竣工しました。この小学校はカンボジアの首都プノンペンから北約300Kmのところにあり、シャンティ国際ボランティア会(SVA)カンボジア事務所の建設協力により9月18日に着工したものです。9月に竣工した後、12月21日に同校で小学校贈呈式が行われ当協会の堀内一史理事及び事務局員1名が出席しました。

贈呈式の午後から行われた式典には、SVAプノンペン事務所長とスタッフ、コンポントム州の行政関係者、教育関係者、カンボジア人僧侶、住民、生徒・児童等、約400名と多くの方々の参列があり、村の教育発展に対する関心の高さが感じられました。

この式典は小学校の校庭で行われ、僧侶による読経、カンボジア国家斉唱で始まりました。その後、コンポントム州代表より当協会に対して、メダルや感謝状が授与され、村人や子供たちに囲まれ、非常に温かい雰囲気が進められました。当協会からは、ノートや鉛筆などの文具類、またサッカーボールなども贈呈しました。子供たちは、嬉しそうな顔でボールを抱えていたのが印象的でした。

皆様方のご支援・ご協力によりベン・ロヴィア・レー小学校の新校舎を贈呈することができましたことを心より感謝申し上げます。



感謝状をいただきました(左は堀内理事)



小学校生徒代表の挨拶



ブーゲンビリアを記念植樹しました

**Nepal**  
医療支援活動

よもぎの会主催

**Health Camp in chitwan, 2011**  
**チトワン・ヘルスキャンプ報告**

昨年8月21日から始まった今年のヘルスキャンプは過去最高の17名に及ぶ日本からの参加者、ネパール人スタッフ6名、ネパール赤十字チトワン郡ナラヤンガート支部の総勢100人にのぼるボランティアたちの協力の下、合計3,578名の患者さんの治療をさせていただくことができました。主に坐骨神経痛や関節炎、片頭痛などの症状を持った方が多く、初診から再診まで多くの方が訪れました。

今年はテレビ朝日の取材があり、日本から参加した鍼灸師とディレクター、カメラマン、音声担当の3名も一緒にネパールへ到着し、専用バスでナラヤンガートへ移動しました。バスのスピードは平均30～35キロと日本では信じられないスピードで、予定時間を大幅に超えて宿泊先ホテル到着は午後8時頃になり、皆さんはとてもお疲れでした。

今回のヘルスキャンプ会場となった赤十字ナラヤンガート支部へは事前の打ち合わせに合計4回出かけましたが、早朝4時前に出発し、休憩もほとんどなしで時速60～80キロで走行したので4時間弱で到着。その日のうちに再び帰ってきていました。しかし、今回の30人乗り大型バスは安全第一、途中数回の休憩などをとったために夜の到着となりましたが、全員それほどの疲れや車酔いもなく、安堵しました。

(畑 美奈栄)

**ボランティア概要**

ヘルスキャンプ実施期間：2011年8月21日(日)～25日(木)

参加者：日本人鍼灸師14名(鍼灸専門学校生含む)、ネパール人鍼灸師6名  
ボランティア1名

実地場所：ネパール赤十字チトワン郡ナラヤンガート支部

時間：6時(早朝)～12時(正午)まで



**治療後は** ○ ○ ○

キャンプが終わった後は、反省会をしたり勉強をしたりして、それぞれに過ごします。ネパールの文化を学んで、より一層治療に励んでいました。



**ヘルスキャンプの合間に** ○ ○ ○



夕食は街にあるカレー屋さんで



テレビ撮影もありました



会場付近には沢山の動物がいます

## 無料巡回医療ボランティア ヘルスキャンプ日誌

野戦病院さながらの治療会場で参加者が綴りました。

### 2011年・チトワンヘルスキャンプを体験して

呉竹学園 東京医療専門学校 本科 3年生 水野 アグスティン

8月21日の朝、ホテルで早々に朝食を食べて、6時半には軽トラックに乗り込み、5分ほど移動した所のヘルスキャンプの会場に到着しました。日本では6年ほど接骨院の勤務をしながら、医療の学問に勤しんできた経験だけを、自分の自信に置きかえ、「自分にできる全てのことをさせて頂くのだ」という思いで、患者さんとアシスタントのボランティアと向き合い、「ナマステ」と挨拶を交して、静かに最初の臨床が始まりました。

患者さんの訴える言葉や表情、ジェスチャー、望診、触診、「HC(ヘルスキャンプ)に役立つネパール語」を見ながら患者さんやボランティアの人とコミュニケーションをとり、治療のできる体勢を整える。そして、試行錯誤をしながら治療をしました。

ネパール人に多く診られた疾患は、坐骨神経痛、膝関節疾患、腰痛、頸肩凝り、頭痛、腹痛などでした。腰に鍼を刺して感じてしたのは、ゴムマリのような弾力のある筋肉で、鍼が進んでいくごとに線維が切れて「ぶつぶつ」と手に伝わる音がして、異様な硬さを感じました。初めての臨床での鍼灸治療で、施術前よりは少しでも良くなっているといいが……。 「ハルカ バヨ?(痛みは軽くなった?)」と聞くと、ネパール人は、とても素敵な笑顔で、首を斜め横に振り(yesの意味)喜んでくれました。この瞬間は本当に嬉しかったです。

### ヘルスキャンプとわたし



鍼灸あん摩マッサージ指圧師 千本 明子

今回チトワンは2回目のHC。2年前よりは少しは落ち着いて治療できるかも、などという傲慢な甘い考えも持って参加してしまいましたが、始まった途端にそんなものは見事に打ち砕かれ、ただひたすら自分の無能さ非力さを痛感させられたHCでした。しかし、私が落ち込もうが、砕かれようが、患者さんは次々とやってきます。

3日目、外のテントでの治療担当の日。朝から雨。テントを張っているとはいえ所々から雨漏りがあり、ベッドの位置を動かして、できるだけ濡れないように配置し、周囲には座位で治療できる膝や肩が主訴の患者さん用の椅子をずらりと並べてスタート。治療開始してからどんどん周りに待機している患者さんが増え、雨も降っていることからじりじりとベッドの周囲に集まり、ベッドの反対側へ行くにも、そのベッドの上を乗り越えないと行けないほどに。

その患者さんたちからのプレッシャーたるはものすごく、顔を上げた瞬間には、次に診るとカルテが次々に突き出されます。改めて患者さんに向き直ると、そこには雨の中サンダルで歩いてきているためにふやけてしまった足の裏が見えました。それを見たとき何とも言えず涙が出そうになりました。痛みや辛さを必死に訴えてくる患者さんを前に、今の私にできることはなんだ。自分の力不足を嘆いている暇はなく、今この瞬間に出来ること。

それは向き合っている患者さんを想うこと。少しでも良くなって欲しいと祈ること。

それだけはベテランの先生方に負けないくらい今の私に出来ること。

私がさせて頂いた治療の効果がどれくらいあるか正直わかりませんが、精一杯心を込めて体を触らせて頂きました。それから治療後に笑ってくれる患者さんが増えました。2年前と比べ、驚くほど成長していない自分がいて愕然としましたが、この先何十年経っても忘れてはいけないものにも改めて気づくことができました。

HCを通して、たくさんの大切な方々に出逢えたことにも心から感謝致します。

平成23年8月23日～9月3日

# 「出会ったすべての人に、 もう一度会いたいと思える旅」

## 第22回 麗澤大学 タイ・スタディツアー開催



平成23年8月23日から12日間、第22回目の麗澤大学タイ・スタディツアーが開催されました。タイ北部のチェンマイを観光、チェンライにあるメーコック財団（貧困等の理由により学校に通えない23名の子供たちに宿舎を提供、通学支援や職業訓練を行っている）に滞在し、子供たちの生活や文化の交流会などを開きました。タイ北部の山岳民族の村を見学することもでき、「幸せとはなにか？」を考えるディスカッションも行い、異文化理解を深めるきっかけとなりました。



### ボランティア活動

スタディツアーでは、タイの文化を学びながら、ボランティア活動に参加します。

#### ●メーコック財団での建物ペンキ塗り

メーコック財団にある古くなった建物等のペンキ塗りをしました。また新しく必要な建物をつくったり畑作業をします。子供たちと一緒に夕飯を作ったり掃除をして共に生活します。

#### ●近隣の村の小学校での配膳

近くの小学校で昼食を提供しました。村の先生や子供たちと一緒に交流会もして楽しめます。元気いっぱいの山岳の子供たちは、「日本語書いて！」と興味津々です。



### タイ食文化体験



ひき肉のバジル炒め



タイ固麺焼きそば



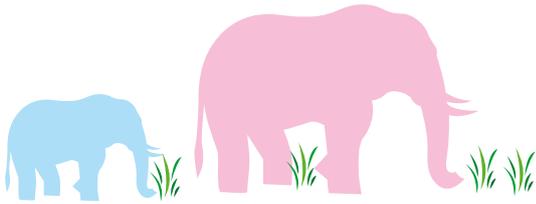
果物ランブータン！



おかゆの朝食

# タイ・スタディツアーに参加した 学生たちの

# 声



外国語学部 国際交流・国際協力専攻1年 加藤 卓

まず、このスタディツアーに参加させてくれた両親にお礼を述べたいと思います。高い学費を払いながらも息子に機会を与えてくれた両親を心から尊敬します。私は今回のツアーを通じて二つのことを考えました。それは「教育の大切さ」と「自分の将来」です。今回のツアーでは主に、ルンアルンとメーコックで子供たちと交流しました。どちらも教育支援のための施設で、そこに入っている子供たちは幸せなのだろうと考えさせられました。山岳民族の中でもまだまだ「教育の大切さ」を理解していない人もいますので、今後そのような人を減らすための活動の手助けをしたいと思いました。また、このツアーを通じて真剣に「自分の将来」について考えました。日本にいる時はただ漠然と毎日を過ごしていた部分もありました。ですがタイに行き、ルンアルンの中野さん、メーコックのアノラックさん、その他にも多



くの人に会い良い刺激を受けました。その中で「海外の様子を伝えたい」と思い始めました。自分だけがこの状況を知っているは何も変わらないと思いました。だから明確には決まっていますが、海外の様子を多くの人に伝えられるような人間になりたいです。

今回のツアーで出会った多くの人たちとの出会いをこれっきりにはせず、今後も関わっていきたい。自分からチャンスを待つのではなく、自分から積極的に行動して、もう一度会いに行きたい。その際はもっとタイ語を話せるようになっていきたい。この体験を口先だけではなく、行動で示していきます。



外国語学部 国際交流・国際協力専攻3年 菅野 恵美

私はこのスタディツアーで、人と人とのつながりの大切さ、幸せの価値観、教育の大切さを学んだと共に、多くの発見と感動を得ることができました。

私がこの旅で一番心に残っているのは、タイの文化に対する感動や人々の優しさ、子供たちを支援しているスタッフの一生懸命さです。どこを歩いても老若男女を問わず微笑んでくれたり、手を合わせて「サワディカ〜、サワディカ〜」と言ってくれた気がします。日本にいる時より笑顔で過ごせたとし、温かい気持ちになって、こういう生活はいいなと何度も思いました。旅に行く前は食事が一番不安でしたが、タイの料理、お菓子やフルーツはとても美味しく、後輩が残した分まで食べてしまうほどでした。民芸品は前から綺麗だと思っていましたが、とても細かい作業を工場の人や子供たちがしているのを見て、こういう人たちがこんなにも苦労して、こんな美しいものを作り上げているのだなと感動をしました。その民芸品を日本のお店やタイのお店で買うのも彼らのためになるけれど、実際に作っている場所や人から買うことによって、間接的ではなく直接的に貢献ができたのでとても嬉しかったです。

メーコック財団やルンアルン・プロジェクト(暁の家)を設立した方々のお話を聞いたとき、1年生の頃に竹原先生が教えてくださった国際ボランティアをする上で大切な美しい犠牲「人のために使う時間・お金・体力・勇気」を思い出し、美しい犠牲を行っている方々に出会ったことに感激しました。そして設立者の思いをスタッフやボランティアの方々が支えていて、人と人とのつながりは素晴らしいことだと改めて思いました。



## Event & Information

### RODA・IEC共催

#### 映画で学ぶ国際協力開催

6月18日(土)に麗澤海外開発協会、IEC(麗澤大学外国語学部外国語学科国際交流・国際協力専攻)共催の映画で学ぶ国際協力のワークショップを開催しました。主にバンラディッシュのドキュメンタリー映画「アリ地獄のような街」を上映後、バンラディッシュからの留学生との懇談をしました。麗澤大学の学生や職員も参加し、貧困とは何かを考えるきっかけになり、ボランティアとしてどう参加するのかを話し合いました。

### 伝統の日に出展しました

6月4日(土)から5日(日)にかけて、千葉県柏市において公益財団法人モラロジー研究所および学校法人廣池学園主催の「伝統の日」が開催され、麗澤海外開発協会では、活動紹介展示、タイやネパールの民芸品販売を行い、多くの皆様にご協力いただきました。本誌を借りて厚く御礼を申し上げます。

今回も、多くの学生ボランティアにお手伝いいただき、卒業生にも駆け付けていただきました。今後も心と心をつなぐ国際協力を推進し、がんばっていききたいと思いま

### 生涯学習フェスタで棒灸の無料体験

10月2日(日)、公益財団法人モラロジー研究所主催の生涯学習フェスタに参加し、麗澤海外開発協会ではネパールの棒灸体験を開催しました。よもぎの会を代表する畑美奈栄氏をはじめ、ヘルスキャンに参加した鍼灸師約10名の方にご協力いただき、無料で棒灸体験を実施しました。多くの方々にご参加いただき、募金にもご協力いただきました。ありがとうございました。



### 第48回麗陵祭に

#### 駐日ラオス特命全権大使がご来園

11月3日(木・文化の日)、麗澤大学第48回麗陵祭にシートン・チンヨーティン駐日ラオス特命全権大使ご夫妻が来園され、オープニングセレモニーに参加されたほか、廣池千九郎記念館および学生の展示を視察、さらにボランティアサークル「プアン(主にタイやラオスなどの東南アジアを中心に支援活動をしているボランティアサークル)」と「RISOVP(リソップ)〈外国語学部IEC専攻の学生により発足したボランティアプロジェクト〉」の学生と親しく懇談されました。

大使はオープニングセレモニーの挨拶で、東日本大震災へのお見舞いを述べた後、当協会や麗大生によるラオス支援(サワンナケート県タート・インハン小学校の図書館建設)について感謝の言葉を述べられました。本学にはラオスからの留学生が二人在学し、大使の挨拶についても言語教育研究科日本語教育学専攻一年のケオロンさんが通訳に当たり、その大役を見事に果たしました。



駐日ラオス特命全権大使ご来園

# Charity Concert チャリティーコンサート

～アジアの子供たちに教育支援を～

ご参加・ご協力いただき

まことにありがとうございました！

平成23年12月3日(土)、麗澤海外開発協会では、「アジアの子供たちへの教育支援」を目的にチャリティーコンサートを開催しました。当協会によるチャリティーコンサートは、平成20年の開催に続いて今回で2回目。会場となった東京・内幸町ホールには、雨天にもかかわらず約200名の方々が参加されました。

開会にあたり、廣池幹堂会長が竹原茂副会長と共に登壇し、挨拶と御礼の言葉を述べました。竹原副会長(麗澤大学特任教授・旧名ウドム・ラタナヴォン)はラオス出身で、協会の設立当初から関わっています。当協会は現在、ネパールでの医療支援、タイ北部の少数民族の子供たちへの教育助成、ラオスとカンボジアにおける学校施設建設等への支援を行っています。

第1部では、協会の沿革と活動報告ならびに、麗澤大学の学生ボランティア・サークル「プアン」と「リソップ」が、それぞれの活動を紹介しました。第2部・心をつなぐコンサートでは、最初にアマチュアオーケストラ「麗しの森アンサンブル」が、コンサートマスターの沼野文子さんのトークを交えてクラシックの名曲とクリスマスメドレーを披露。続いて「フレール少年合唱団」が公演。子どもたちのかわいいコーラスに、参加者の表情も自然とほころんでいました。

また、エントランス・ホールでは、国際協力に関する展示とタイ少数民族の手作り品の販売が行われました。このイベントを通じて、参加した多くの方々に、海外協力の意義と本協会の活動を理解していただくことができました。今回の収益金は、タイ、ラオス、カンボジアなど、アジアの子どもたちの教育支援に活用いたします。

チャリティーコンサート実行委員長 望月雄二



活動内容展示をしました



学生ボランティアによる民芸品販売



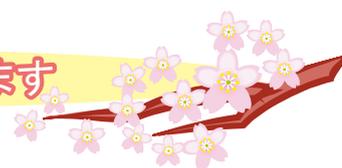
かわいい声を披露してくれたフレール少年合唱団



麗しの森による心地よい演奏



## たくさんのご支援、ありがとうございます



(平成23年5月21日～平成24年2月16日)

### 会費

廣池幹堂、甲良昭彦、木下廣太郎、関哲夫、宮島達郎、福澤清治、竹原茂、荒木郁雄、林正勝、葉山清和、長谷川武、横山守男、小松務、山本祥子、柏谷康博、宮脇常夫、横山印刷(株)、所一彌、柴田英輔、松本哲洋、小西直之、藤村薫、(株)小松製菓、山崎純雄、長谷川和子、高野橋孝治、笠原茂、小林雅純、大内栄三、濱井利一、久保智子、有限会社 弘明堂、奥村寛、三木実、木津孝道、河村満、加藤達也、石井温子、米田郁弥、松本みゆき、千本明子、千々和香織、田澤貴世佳、田中節照、松本彰夫、今井收

### 竹原基金

廣池幹堂、甲良昭彦、木下廣太郎、望月雄二、関哲夫、田中駿平、竹原茂、葉山清和、横山守男、山本祥子、柏谷康博、宮脇常夫、所一彌、松本哲洋、小西直之、北岡希久朗、長谷川和子、笠原茂、濱井利一、三木実、加藤治彦・翠、篠原正隆、中新田モラロジー事務所、今井收

### 一般寄付金

廣池幹堂、甲良昭彦、木下廣太郎、望月雄二、関哲夫、大河原良雄、葉山清和、横山守男、レイ・イノベーションやまもと、大山寿々枝、宮脇常夫、横山印刷(株)、所一彌、小西直之、長谷川和子、出町友里子、柿本勇人、笠田環嗣、橘高重久、佐藤孝子、三上ハツミ、篠原正隆、森与喜男、早乙女静子、増田顕次郎、飯島孝之、木村多加志、東北ブロック親善ゴルフコンペ事務局、東京都モラロジー協議会、御前崎モラロジー事務所、大阪和泉モラロジー事務所、浜松西モラロジー事務所、名張モラロジー事務所、モラロジー研究所谷川講堂、水戸モラロジー事務所、大阪府モラロジー協議会



## 準会員で国際協力を始めませんか？

～1口2,000円からの支援～

麗澤海外開発協会では、1口2,000円からの準会員を募集中です。国際協力に心を向けたい、ボランティアに参加したい、そんな方にお勧めです。会員の方には、RODAニューズレターやイベントのお知らせを送付いたします。皆様からご支援いただいた会費は、すべて支援金、また活動基金にさせていただきます。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。



種類	年額
会費	個人 1口1万円(1口以上) 法人 1口1万円(3口以上)
準会費	1口2,000円
竹原基金	任意の寄付金を募ります
一般寄付金 募金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164  
 名義 (財) 麗澤海外開発協会  
 ※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。  
 銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567  
 名義 (財) 麗澤海外開発協会

### (財) 麗澤海外開発協会 事務局

〒277-0065

千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL：04-7173-3165

FAX：04-7173-8953

E-Mail：kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp

HP：http://www.reitaku.or.jp/



会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。  
 掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。  
 ご連絡のない場合は、掲載にご同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。